

日本ポルトガル協会設立趣意書

ポルトガル国は16世紀種子島に鉄砲の渡来、ザビエルの布教等により我が国の眠りを覚ましてより、暫くは我が国の近世史に現れて参りませんでした。明治に至りモラエス等の著名な文人の来日があり、両国の文化交流の緒は再び開かれ、爾来両国は次第に相互の認識を深めて参りました。

戦後23年、今や彼我の文化交流及び交易は漸く熾となりつつあります。下名等は洋の東西にわたるポルトガル人の活動の歴史、文化の特色、経済等を多少とも識るものとして、かねてより、両国交流の基盤となるべき団体が我国に存在せぬことを残念に思っていました。今やその機漸く熟したるやに見受けられます。

よって広く日葡交流に関心を有する人々の協力を得て、発起人会を催し、協会の設立、目的、使命、活動等について相諮り、更に6月4日「日本ポルトガル協会」の設立総会を相催す予定であります。

先ずは発起の意を申し述べます。

1968年5月吉日

発起人代表

井上靖（作家）

勝野康助（元駐ポルトガル大使）

法華津孝太（極洋捕鯨会長）

柳満珠雄（元三井銀行社長）

吉田賢吉（元駐ポルトガル大使）